知的障がい者施設のための
ADリスクマネジメントNews
2018. 5
No.020

特養の施設が教えてくれた確率論的転倒防止策

－転倒・骨折の確率を減らす対策－

■タッピング＋吸引＋救急搬送で過失はない

知的障害者施設の入所者Ａさんは、転倒の危険が大きい利用者です。身体機能の大きな障害はないものの、５０代後半になって急に転倒するようになりました。Ａさんは昼間は高い頻度で歩き回っているため、支援員が常時そばに付いていることはできず、転倒を防止することは極めて難しいのです。２週間前に施設内を歩き回っていて、転倒した拍子に顔面をエントランスに置いてあった、テーブルの角にぶつけて、頬骨を骨折してしまいました。家族や施設管理者からは転倒防止の対策を求められましたが、歩行の自由を制限する訳にはいきませんし、Ａさんの職場のリーダーのＳ主任は頭を抱えています。何か良い方法は無いでしょうか？

転倒の確率を転倒リスク低減する対策を

■特養の施設長が教えてくれた転倒骨折リスクの低減策

Ｓ主任は転倒防止対策に熱心に取り組んでいる、同一法人内の特別養護老人ホームのM施設長に相談しました。するとM施設長は、「一つの対策で全ての転倒を防止することはできないから、転倒・骨折リスクを減らせば良いんですよ。」と、事故の確率を減らす対策を教えてくれました。施設長は特養で発行している次のようなニュースの記事を見せてくれたのです。

■リスク低減策を組み合わせて骨折の確率を減らす

認知症が重い利用者で常時歩き回ったり、居場所を頻繁に移動する人がいます。これらの利用者の転倒事故を「見守りの強化」で防ぐことは現実的ではありません。これらの対策では、リスクを低減する３つの手法を組み合わせて、生活全体としての骨折の確率を減らすことが効果的です。

骨折リスクを減らす３つの対策
①精神不安などから発生する目的の無い歩行行動を極力減らす
　生活環境・生活習慣の見直しと、向精神薬の見直しなどで不要な歩行行動を減らす
②歩行中に転倒するリスクを極力減らす
　降圧剤・血糖降下剤の見直しや歩行環境の見直しで歩行時の転倒のリスクを減らす
③転倒した時骨折するリスクを極力減らす
　緩衝材・介助用バーやヒッププロテクターにより転倒した時の骨折のリスクを減らす

３つの対策それぞれでリスクが半分になれば　$\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{8}$
その利用者の生活全体の転倒骨折リスクは⅛に減ります

■Ｓ主任がすぐに講じた対策

Ｓ主任は「転倒してもケガをさせない対策」を聞いて、見守りばかりに頼っていた自分たちの対策の盲点に気付き、目からウロコが落ちるようでした。主任はＡ君が頬をぶつけて骨折したテーブルの角を調べ、「これじゃ骨折するのもムリないね」と言ってホームセンターに行き、右のような角を保護するカバーを買ってきて貼りました。

発行責任者
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部　市場開発室
担当：堀江　　TEL　03-5789-6456

担当課・支社　代理店
株式会社福祉施設共済会
東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSﾋﾞﾙ
電話03-5466-0881　FAX03-5466-0882